

表紙帯の色・想紅(おもいくれない)

「想紅」は「月」の色、寒椿の色です。椿という字は、春に花が咲く「春」と「木」の合字で、読み方の由来は、葉に光沢がある「艶葉木(つやばき)」から来ていると言われています。



浅草雷門の会の仲間たち

浅草雷門の会(あさくさえんじゆのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇三十六年(六百二十八年)三月十八日、隅田川で網得され、槐の木(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。

浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで御紹介いたしておりますが、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡、を中心に「日本の扉 浅草」を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

浅草槐の会

日本の扉

浅草

浅草槐の会

「慶祝江戸開府四百年」

ASAKUSA

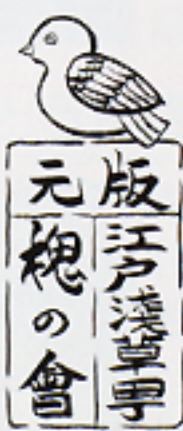
The Door Step to Japan

vol.5
冬号

平成十五年癸未

浅草歳時

一月初詣り (睦月) 浅草名所七福神もうで	二月初詣り (如月) 針供養	三月初詣り (弥生) 浅草観音現会金龍の舞	四月初詣り (卯月) 浅草春の観光祭 八日 釈尊誕生日(花まつり) 十三日 白鷺の舞	五月初詣り (皇月) 宝の舞 十六、十八日 三社祭 三十一日 お富士様の植木市	六月初詣り (水無月) 一、二十九、三十日 お富士様の植木市
七月初詣り (文月) 九、十日 四万六千日 (ほおずき市)	八月初詣り (葉月) 万霊燈籠供養会 二十五日 台東薪能 二十六日 浅草サンバカーニバル	九月初詣り (長月) 二十三日 彼岸会	十月初詣り (神無月) 浅草秋の観光祭・菊花展 一日、十一月十六日 江戸開府四百年記念・奥山風景(予定) 十八日 金龍の舞、菊供養	十一月初詣り (霜月) 東京時代まつり 三日 白鷺の舞 八、二十日 酉の市 十五日 七五三	十二月初詣り (師走) 十七、十九日 歳の市 (羽子板市) 三十一日 除夜の鐘(弁天山)



お問い合わせ
〒111-0032 台東区浅草1-36-7
浅草槐の会事務局
URL <http://www.asakusa.gr.jp/>
e-mail info@asakusa.gr.jp
発行 平成14年12月15日 vol.5

歌舞伎四百年の幕開けを浅草で

平成十五年は、江戸開府四百年の記念の年。都内各所でこれに因んだ行事が計画される中、ここ浅草でも新春よりさまざまな催しが練られ、一層のにぎわいが期待される一年となります。

まずは、新年の訪れとともに幕を明ける「新春浅草歌舞伎」。平成十五年は、出雲の阿国が歌舞伎踊りを披露してから四百年という節目の年でもあります。当時の歌舞伎興隆の中心地を「猿若町」という地名で残す浅草は、今でも芝居に理解の深い土地柄です。多くの歌舞伎役者さんにもご贔屓いただき、例年、浅草公会堂で催される新春興行は、若手役者の登竜門とも呼べる公演へと育ってきました。

浅草においでの皆様にもお楽しみいただいている新春興行ですが、さらに今年は「浅草総見の日」を設け、芸者衆が人力車で芝居見物にやったり、観劇後の食事を料亭で楽しめる特別チケットを販売するなど、さまざまな趣向で江戸文化を楽しんでいただけることになりました。

また、終演時間を以前より早めに繰り上げ、お芝居が跳ねた後

もゆっくりと浅草で過ごしていただけるよう心を配りました。こうした街を挙げての取り組みに、これまで以上に浅草歌舞伎を盛り上げようという気運が高まる中、初芝居の舞台に立つは平均年令二十六才という若手役者の面々。中でも「中村座に所縁の深い浅草で歌舞伎を演じるのは嬉しいこと」とおっしゃる中村勘太郎さんを、槐の會の勉強会にお招きしました。この席上、平成十二年から催されている平成中村座での公演をはじめ、浅草への特別な思いを語って下さった勘太郎さんに、そのお返しにと、この日の聞き役であった文扇堂のご主人から明かされたエピソードには誰もがびっくり。実は、勘太



郎さんの誕生前、男児出産を祈願し、浅草寺の腹帯が店主の手で勘九郎ご夫妻に渡されていたと言うのです。「知りませんでした。そんなところでも浅草とのつながりがあったんですね」と、感慨深氣な勘太郎さん。他にも、勘太郎さん曰く、「口を開けば芝居の話になる」という父・勘九郎さんとの、楽しくも厳しい父子・師弟関係を披露いただくなど、とても和やかな勉強会となりました。

さて、新春浅草歌舞伎の演目についてですが、『菅原伝授手習鏡車引』『奴道成寺』『義経千本桜川連法眼館の場』を据え、歌舞伎の多様性を存分に楽しめるプログラム構成となっています。

しかも午前と午後の部では主な配役を入れ替えて上演するという、意欲的な取り組み。一日に男性(車引の梅王)から女性(義経千本桜の静御前)へ、女性から狐(義経千本桜の佐藤忠信・源九郎狐)へと役柄を変えていく勘太郎さんは、「それぞれ異なる発声で演じていくので、喉を痛めやすいプログラムだ」と言われています。

これを歌舞伎の世界では「調子をやりやすい」と言うんですが、なんととしても一ヶ月

間、調子をやらずに演じ通したい」と、強い決意をのぞかせてくれました。若さに驕ることなく体調管理に気を配る姿勢には、プロの役者魂を垣間見る思いです。

英氣あふれる若手役者の成長を見守れる喜びと、将来への大いなる期待を胸に、歌舞伎四百年を飾る浅草のお正月は華やかに始まります。

◆『浅草総見の日』特別チケット情報◆

平成15年1月17日『浅草総見の日』に、昔ながらの芝居見物の雰囲気味わっていただくために用意された飲食付きのチケットです。

◎芝居茶屋／草津亭 03-3841-8236

◎時間／6時30分～

◎金額／22,000円

◎会席料理／江戸開府四百年記念料理

◎飲み物／ビールまたは日本酒またはソフトドリンクを1本

*チケット、税金、サービス料込みですが、飲み物の追加は別料金です。

*芸者衆が座敷にてお迎えします。